

## 4 産学連携への取り組み

### 多様化する企業ニーズにすばやく対応

先端研では、従来の知財偏重による産学連携のあり方を再考し、企業と研究開発の初期段階から連携を指向する「トライアル連携（組織連携）」を2005年度より進めています。その特長は、極めて柔軟な形態をとることで、多様化する企業ニーズにすばやく対応出来るだけでなく、研究者側にとっても新たな問題発見や課題設定につながるため、大学の研究活動の活性化にも貢献しています。

これまでに新日本石油(株) (現JX日鉱日石エネルギー(株)) (2005年10月)、富士電機システムズ(株) (現富士電機

ホールディングス(株) (2006年6月)、(株)デンソー (2006年12月) の3社と連携協定を締結し、各企業へのコンサルティング、講演、出張授業をはじめ、企業研究員の受入など相互の人的交流も活発に行われています。これら活動は、共同研究の開始や大きな国家プロジェクトの組成につながるだけでなく、連携先企業が新たな分野へ研究開発投資を行う等、企業の経営戦略にも多大な影響を与えています。



### トライアル連携実績

#### 東大富士電機ラボ

本ラボは、富士電機ホールディングス株式会社と先端研の組織連携協定に基づいて2009年4月に設置されました。2006年に設置された東大FESラボを継承し、連携範囲を富士電機グループ全体に拡大したものです。

これまで、研究室訪問、工場見学、講演会などを通して相互交流が図られ、エネルギー・環境・社会の分野における富士電機グループの様々な事業テーマに対して、先端研が有する革新的な技術シーズの適用可能性を双方の研究者が共同して検討する場が運営されています。



#### ENEOSラボ

新日本石油株式会社と先端研は、2005年10月から「エネルギーと環境が調和した社会の実現」をテーマに包括的な組織連携活動を開始しました。

この活動の一環として、超高効率太陽電池並びに蓄電技術等の新エネルギーシステム開発に関する先端研との共同研究拠点として2008年度にENEOSラボを設置し、研究員が常駐してNEDOから受注した「ポストシリコン高効率太陽電池」の研究のほか、「高密度・低コスト蓄電材料」に関する研究も行われています。



#### ■ トライアル連携の活動状況 (2005-2009年度)

| 年度             | 2005 | 2006 | 2007 | 2008 | 2009 | 計   |
|----------------|------|------|------|------|------|-----|
| コンサルティング       |      | 8    | 44   | 41   | 32   | 125 |
| 出張授業・講演        | 4    | 11   | 24   | 12   | 3    | 58  |
| 企業研究員受入        |      | 2    | 2    | 6    | 6    | 16  |
| FS研究           |      | 3    | 11   | 9    | 8    | 31  |
| 共同研究           |      |      | 2    | 7    | 4    | 13  |
| ナショナルプロジェクトの採択 |      | 1    | 2    | 2    | 2    | 7   |
| 年度別計           | 4    | 25   | 85   | 77   | 55   | 246 |

■ 問い合わせ先 経営戦略企画室 特任教授 山下 秀 (産学連携担当)  
産学連携コーディネータ 谷内 梓  
E-mail: sangaku@rcast.u-tokyo.ac.jp  
TEL: 03-5452-5092 FAX: 03-5452-5425